

研究分野のキーワード：学校保健，不定愁訴，健康情報リテラシー，保健指導，養護教諭

研究紹介

私の専門は公衆衛生学です。公衆衛生学とは、集団の中で生きる人間の病気を予防し、健康を増進していく方法を考える学問で、人々の健康を支える基礎医学の一領域です。の中で、主に「学校」という場所で起こる様々な健康問題を扱う「学校保健」が私の研究分野です。ほとんどの学校には、児童・生徒の健康を守るための教員として養護教諭が配置されていますが、その養護教諭の仕事の基礎となるのが、この「学校保健」です。集団で生活するこの「学校」という場所で、児童・生徒の皆さんの健康を守り、あるいは病気を予防し、また健康を増進させることについて、養護教諭やその他の先生が適切に対応できるのは、すでに、その分野の公衆衛生学の研究成果（知見）があるからです。

私は現在、次の2つのことを中心に研究しています。

- (1) 不定愁訴（はっきりしない訴え・苦痛）を持つ児童・生徒に対する研究
- (2) 学校での保健指導や保健教育の内容とその有効性に関する研究

不定愁訴というのは、医学的にはほとんど異常がないが、つらい症状（頭痛やだるさ、腹痛など）が出ることを言います。学校の保健室に内科的な訴えで来室する児童・生徒の何人かはこれに当てはまります。医学的に異常がなくても症状が出ているのは事実で、そのことを理解してあげないと、子どもたちはつらいままになってしまいます。自律神経という体の機能に異常が生じている可能性があり（現在はまだはっきりとわかる検査法がありません）、これをどこでも使える簡単な器械や調査票（問診票）で解明しようとしているのが私の(1)の研究です。

もう一つの研究は、学校での保健指導や保健教育についてです。学校では、養護教諭や他の教員によって児童・生徒の健康を守り、健康を育てていくための適切な指導が行われているはずですが、残念ながら、その内容についてはきちんと吟味されていないのが現状です。他の分野もそうですが、医学や保健の分野では新しい考え方や発見が次々と発表され、昔の知識が今は時代遅れになっている場合も少なくありません。しかし、たくさんの情報から何が正しいかを見分ける能力がなければ、結局、本当の正しい知識は得られないのです。私はこれを「健康情報リテラシー」と呼んでいます。この能力を児童・生徒の皆さんに身につけてもらうことが、保健指導や保健教育の重要な目標であり、それが、どのような内容や方法によって可能になるかどうかを追求するのが、私の(2)の研究です。

これからも、人間集団を対象とする学問である公衆衛生学を基礎にしながら、私の属する養護教育講座の使命である「より良い養護教諭の養成」に少しでも貢献できるような、実際の教育現場に近い内容の研究を進めていきたいと思っております。